

みたか環境ひろば 第69号

令和元年 10 月 1 日号



私は、櫟の木である。

今は昔、私の葉は、夏は緑陰を提供し、秋は落葉となって貴重な有機肥料の材料であり、日本の宝物でありました。今でも少しだけ、腐葉土という形でお座敷に出ています。三鷹の農協や農家さんは、積極的に畑に活用しています。つまり、市内の落葉ごみを減らし、大気中の二酸化炭素をつかまえ、減らしてくれているのです。

私は三鷹町役場のお庭で生れ、兄弟姉妹達と並んで住んでいます。

私は歩けない櫟の木。だけど三鷹市民から愛されている緑の木です。市民憲章（昭和55年）にも、平和な、みどり豊かなまちをつくり、歴史を大切に、新しい文化を育てるまちを目指して学び合おうとあります。

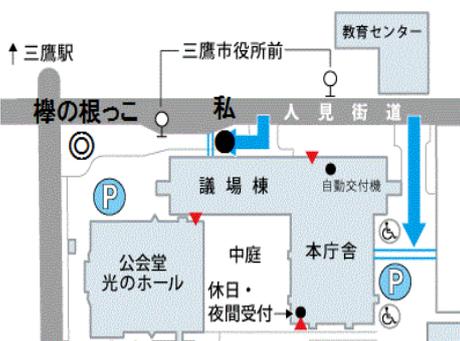
私の母は、病気にかかり体が弱ってしまい、やむを得ず切りました。その母の痕跡は切り株として残っており、三鷹市のシンボルとして、今後も大切にしたいと考えています。これは、三鷹だけでなく世界の大都市「東京」に残された貴重な宝物だと思います。

私は歩けない櫟の木、せめて、私は、声だけでも市民に貢献できたら嬉しいなあと思っています。木の根っ子となってしまった私の母は、何の変哲もない木の根っ子、いささか見苦しい姿をしていますが、その母をじっと見ていると、日本の多摩地方のメモリアルシンボルに見えてくるのです。私は、この櫟の根を三鷹市の令和時代の新しいシンボルとして、令和の時代を生きる人々に、サステナブルに受け継がれていって欲しいと願っています。そして、残された切り株を大切に活動があれば積極的に参加していきたいです。

かつて、庁舎を見下ろしていた母は、身長50mから5cmの切り株となりましたが、人見街道沿いに並んだ私と兄弟姉妹達は、少しずつ成長を続け、三鷹市民を見守っています。（川尻）



★本庁舎前の櫟の木★



公園清掃

毎月第1・第3土曜日はあおやぎ公園、第2・第4土曜日は丸池公園の清掃を朝7時から行っています。特に7月から9月までの3か月間は、新川中原住民協議会の環境部の事業として、夏休みの子どもにも参加してもらうために行っています。ポスターを見て参加してくれた姉妹が、自由研究で公園清掃ををとりあげたいと言ってくれたことは嬉しい限りです。また、ラジオ体操のあと親・子・孫の三代で参加してくれた人もいます。

夏のごみは水風船や花火の燃えかすが捨てられています。道路に面した植え込みには、ペットボトル・缶が投げ込まれて、植え込みをかき分けてもなかなか取れず、二人がかりで、反対側から見て、「もう少し右」「もう少し左」と声を掛け合って取り出します。植え込みへの投げ捨ては困ります。

丸池公園は池があるので、子どもなりに仕掛けをして、お魚やザリガニを取った跡が残っています。以前は、ベンチの周りにたばこの吸い殻がたくさんありましたが、今は少なくなりました。時々、家庭のごみや引っ越しのごみが捨てられていることもあり、中身を分別するのも大変です。自分の住んでいる町を大人がきれいにして、次の世代の子どもたちにも伝えて、ごみのない町になったら素晴らしいです。（大平）



★自然豊かな丸池公園★

ごみってなあに？ -捨てる前に考えよう-



人が便利で豊かな生活を求めると、もれなくついてくるごみ。さて、「ごみってなあに？」

流行に左右され着なくなった洋服、読み終えたマンガ、引越しするので使わなくなったもの、買ったけれど食べずに消費期限が切れてしまった食べ物、数えればきりがありません。これらは持ち主の気持ち次第で、ごみになります。捨ててしまえばただのごみ。でもちょっと待って、もの一つひとつに生命があって、始めからごみではありません。ニュースで見かけましたが、いらなくなったからといって、命のあるペットを捨てることはとんでもないことです。

ごみだと思って捨てる前に、資源を無駄にしない方法を一人ひとりが考えて、少しでもごみの少ない地球の未来を想像してみませんか。皆さんもよく知っている3R、「リデュース」「リユース」「リサイクル」。この考え方がとても大切です。ただし、自分のものではなく、ごみ捨て場に捨ててあったパソコンや自転車を勝手に持ってきてはいけません。盗んだことになる場合がありますよ。

ごみに見えても、私たちの考え次第で資源になることがあります。簡単に捨ててしまう前にもう一度考えてみましょう！（小林）

三鷹の農とふれあって～直販マップ～

J A東京むさし三鷹支店では、地産地消の大切さと都市農業を市民の方々により知って頂き、ふれあってもらうために直販マップを発行しています。直販マップには、市内各農家の農畜産物直売所情報はもちろん、市民農園やブルーベリーの摘み取り、ブドウのもぎ取りの情報などが掲載されています。

また、三鷹市の歴史や農業についての特徴、そして①景観創出機能②交流創出機能③食育・教育機能④地産地消機能⑤環境保全機能⑥防災機能といった都市農業の6つの機能の紹介なども新たに掲載しており、さらに旬の農畜産物や特産品が一目で分かるように旬のカレンダーを掲載しています。この直販マップを活用することで、旬の農畜産物を旬の時期（旬産旬消）に味わえることができます。旬産旬消を行うと環境負荷の高い食材の輸入や、工場での生産を減らすことができ、いわゆる「エコ」にもつながります。

直販マップは、三鷹緑化センターや市内J A各支店に置いてあります。是非、直販マップを片手に、家族や近所の友人と一緒に三鷹市内を散策し、新鮮な農畜産物を味わってみてください。これからの時期は、三鷹特産のギンナンやキウイフルーツ、西洋野菜（カリフラワー・ブロッコリー等）など旬の情報がめじろおしです。また、11月9日（土）と10日（日）に第59回三鷹市農業祭が三鷹中央防災公園SUBARU総合スポーツセンター他で開催されます。この機会に「三鷹の農」とふれあってみてください。（J A東京むさし：高野）



★直販マップ★

三鷹緑化センターや
市内J A各支店にて配付

【編集後記】

今年の夏は昨年に比べて少々楽であった気がする。ただし、毎年繰り返される豪雨災害には逃れることができなかった。被害もしくは避難を余儀なくされた皆様にはお悔やみを申し上げたい。自然災害、人災と議論はあると思うが、地球温暖化が自然環境の変化をもたらしていると思う。

子供の頃、三鷹でも満点の星空が観えた。柄杓の形、北斗七星。Wの形、カシオペア座等を銭湯の帰りに見上げたものである。最近、仙川で「カワセミ」が小魚を捕る姿を観る事が出来た。「カワセミ」は清流に住む滅びゆく自然のシンボルとして扱われている。ちょっとした感動を覚えた。まだまだ三鷹にも残したい自然は沢山ある。大切に見守っていききたい。（平澤）

次回の発行は令和2年1月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議
(愛称 みんなの環境)

連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課
電話 0422-45-1151 内線2523・2524

E-mail:kankyo@city.mitaka.tokyo.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。